全農育成スプレーギク品種の挿し穂供給

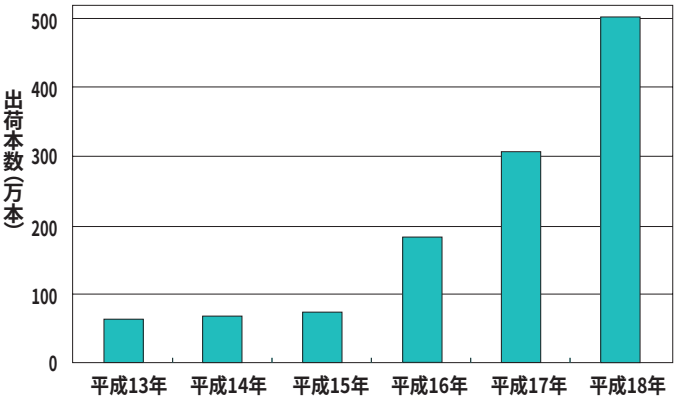
●平成20年度販売予定品種の紹介

スプレーギクは、１茎多花の小・中輪タイプのキクである。花色や花型が豊富で、用途が多岐にわたるため需要も多く、国内生産量を順調に伸ばしてきた品目である。営農・技術センター農産物商品開発室では、スプレーギク産地の経営を支援することを目的に、平成３年からスプレーギクの品種開発に取り組んでいる。開発品種は、ＪＡグループオリジナル品種として施設栽培を行っている産地を中心に利用されており、現在60品種ほどが生産・出荷されている。出荷量は年々増加しており、平成18年度実績は500万本を超えた（図－１）。

ここでは、全農育成スプレーギクの特徴と、キリンアグリバイオ㈱を通した挿し穂供給について紹介する。

全農育成品種はすべて施設内で育種

全農育成品種は、育種工程をすべてガラス室などの施設内で行っているため、施設栽培に適しているという特徴を持つ。これは、施設内で日長管理をすることで、ねらった時期に開花する品種の育成を目的としているためである。日本の夏場の高温条件下では、開花の遅延がなく、ねらった時期に出荷できる品種はまだ少ない。夏作の生産では、花き産業のなかで“盆”と“彼岸”という大きな需要期をかかえているため、この需要期に合わせて出荷できる品種は非常に重要である。そのため、全農では、国内生産者からの要望が強い夏に栽培できるスプレーギクの育成に特に力を入れて取り組んでいる。施設内で栽培を行う生産者には、ぜひ一度お試しいただきたい。



図－１　全農育成品種出荷本数の推移

▲ルグラン

▲エマ

▲ミルモ

▲タバサ

▲フラム

▲ユキ

▲オルカ

挿し穂供給の背景と平成20年度の販売予定

スプレーギクは、栄養繁殖性であり、挿し穂から切り花を生産するが、一般に生産者が親株専用温室で挿し穂を自家増殖し、切り花収穫用に利用している。本会品種も同様の生産体系をとっている。しかし、❶親株専用温室を切り花生産用温室に切り替えると生産量の増加に繋がること❷自家増殖するよりも海外で生産された安価な挿し穂を利用したほうが生産コストを抑えられることから、定植用挿し穂供給へのニーズが高まっている。

本会品種についても、生産量が増加するとともに「自家増殖するのではなく、挿し穂を供給してほしい」との要望が多くなった。

そこで、生産者の要望に応えるため、本会の夏季生産用品種の一部については、キリンアグリバイオ㈱と提携して、海外で生産した挿し穂の供給を平成17年から開始した。これまでの販売実績は好調であり、また生産者からの要望も強いため、平成20年度は供給品種を７品種に、また供給本数を前年の約2.5倍に拡大する予定である。

平成20年度販売予定品種（平成20年3月～6月供給予定）

ピンク

- **ルグラン**：淡いピンク色で夏場には涼しいイメージの花。早生。
- **エマ**：濃いピンク色で夏の高温期でも色あせしにくい。中生。
- **ミルモ（新）**：大輪で淡いピンク色の花が特徴の品種。中生。

ホワイト

- **タバサ**：純白・緑芯が美しい品種。やや晩生。
- **フラム**：高温でも開花遅延しない。早生。
- **ユキ（新）**：純白・小輪のかわいい花が特徴の品種。早生。

イエロー

- **オルカ**：草丈がよく伸び、輪数が多い。早生。

＜お問い合わせ先＞
全農　営農・技術センター　農産物商品開発室
0463－22－1024
注意：挿し穂の購入については、あらかじめ全農との基本契約およびキリンアグリバイオ㈱との販売契約が必要となります。

【全農　営農・技術センター　農産物商品開発室・椎名宏太】

表－１　平成２０年度販売予定品種の特性　（全農営農・技術センターのデータ）

品種名	花色	花型	到花日数＊（日）	切り花長（cm）	切り花重（　）	花径＊＊	茎径（mm）	花蕾数（個）
ルグラン	ピンク	シングル	49	107	78	中	5.8	16
エマ	ピンク	シングル	49	115	76	中	5.7	19
ミルモ	ピンク	シングル	49	117	79	大	5.3	18
タバサ	ホワイト	シングル	55	120	73	小	5.5	14
フラム	ホワイト	シングル	49	101	105	小	5	22
ユキ	ホワイト	シングル	49	105	76	小	5.1	13
オルカ	イエロー	シングル	49	104	79	中	5.5	15

＊到花日数：消灯後12時間日長条件下での開花までの日数
＊＊花径：大は60㎜以上、中は50㎜以上60㎜未満、小は50㎜未満